

なら

# 植防ニュース

2023年3月

発行

## 令和4年度の病害虫発生について

奈良県病害虫防除所 井村 岳男  
浅野 峻介

今年度の気象は、例年と比べて梅雨明けが早かったこと以外はおおむね平年並であった。しかしこのような年であっても様々な病害虫が多発しており、今後も油断なく防除対策を励行されたい。今年度の発生状況の概略は以下の通りである。

**水稻：**イネいもち病は、中山間地域で葉いもち、穂いもち共に多かったが、同じく多発年であった昨年よりは発生が少なかった。いもち病の第一次伝染源は罹病種子である。箱粒剤に加え、早期に葉いもちが認められた際は、追加の粒剤処理を実施することで、穂いもちの発生を抑えるよう務めたい。トビイロウンカは6月にやや多い飛来を確認したが、その後8月までは本田での発生は認められなかった。しかし、9月の高温で急増し、近隣府県では僅かながら坪枯れが確認された。本県では、効果の高い箱粒剤を使用していない水田で9月中下旬に要

一般社団法人奈良県植物防疫協会

〒633-0046 桜井市池之内130-1

奈良県農業研究開発センター内

TEL:0744(47)4861

FAX:0744(47)4862(専用)

HP: <http://www.narasyokubo29.sakura.ne.jp/>

### 目次

◎令和4年度の病害虫発生について	1,2
◎2022年度農薬安全使用研修会	3
◎登録失効になった農薬 (FAMICの失効農薬情報より)	4

防除密度を超える事例が確認されたので、病害虫情報を発出して防除や早刈りを促したが、10月に入って気温が低下したこともあり、坪枯れには至らなかった。最近は、量の多少はあれ毎年確実に海外から飛来しており、夏以降に高温が続くと急増している。効果の高い箱粒剤による予防を行うとともに、坪枯れリスクが高い夏の高温に警戒が必要である。

**果樹：**果樹カメムシ類の当たり年となり、果樹園での被害が発生した。カキ炭疽病の発生は平年より多く、5月の降雨で越冬した罹病枝から緑枝に感染が広がった(写真1)。前年が多発年であったことから第一次伝染

源は多かったと推察される。降雨が継続する場合には薬剤散布回数を例年より増やし、散布できる雨の合間を逃さないようにすることが重要である。また、次年度の第一次伝染源となる罹病枝の除去に注力する必要がある。

**野菜・花き：**イチゴでは、春にヒラズハナアザミウマが一部の圃場で多発し、スピノエース抵抗性の発達を確認したほか、オンシツコナジラミも総じて多かった。天敵製剤導入による防除体系の変化に伴って、害虫の発生様相が変化しつつあるので注意が必要である。キュウリでは一部地域で黄



写真1



写真2

化えそ病の発生が多かった(写真2)。病原体のウイルスを媒介するミナミキイロアザミウマの多発により感染が拡大した圃場が多く認められた。中山間地域のハウレンソウでは、局地的にミカンキイロアザミウマが多発した。夏秋栽培の野菜とキクではオオタバコガの発生が多かった(写真3)。キク白さび病は春から梅雨時期に発生が多かったが、それ以降の発生は落ち着いていた。葉が茂った状態では、薬剤を付着させることが困難なので、採穂前の親株床や定植直後の本圃といった植物体が小さい時期の防除が効果的である。



写真3

写真1. カキ炭そ病 緑枝病斑

写真2. キュウリ黄化えそ病

写真3. オオタバコガ幼虫(ナス果実侵入)

カラー版を協会ホームページに掲載しています。

<http://www.narasyokubo29.sakura.ne.jp/>

## 2022年度農薬安全使用研修会

3月17日に奈良県農業研究開発センター交流・サロン棟にて農薬安全使用研修会が開催され、約60名が参加した。

始めに、奈良県病害虫防除所の浅野氏より、イネいもち病の発生生態と防除について録音での講演があった。イネいもち病はイネの全生育期間で発生し、発病部位や時期により、苗いもち・葉いもち・穂いもちと呼ばれる。主な伝染源は保菌した種籾で、見かけ上健全でも保菌している場合がある。本県では、本菌の感染に好適な、冷涼で多湿な条件になりやすい山間地域で発生が多く、直近では2021年に発生が多く見られた。本病害の防除は、種子消毒（温湯消毒・殺菌剤による消毒）、箱粒剤、本田での粒剤や散布剤がある。箱粒剤を施用し、葉いもちの発生が見られなければ本田防除の必要はないと考えられる。しかし、本田での葉いもち発生拡大後は防除効果が劣るため、初発を見逃さないようにし、常発地では散布時期の目処を立てることも重要である。また、高密度播種では、通常密度播種と比べ、箱粒剤の効果が低下する傾向があるため、移植時の側条施薬により対応する。

最後に、公益社団法人緑の安全推進協会

の西田氏より、農薬の安全使用について講演があった。農薬の適正使用は、使用者・農作物・消費者・周辺環境と住民に対する安全性を確保する上で重要である。農薬のラベルはこれらの安全性を確保するための情報の集大成であり、記載に基づいて使用する。農薬の使用に伴う事故は減少傾向にあるが、保護具の装備不十分や使用時の注意不足、保管管理不良等による事故は現在も発生している。薬液調製時から適切な保護具を着用し、散布の際は自身への暴露や周辺への飛散（ドリフト）に注意して作業する。農作物の農薬残留基準値超過の原因として、使用基準違反が最も多く、次いで散布器具の洗浄不足、ドリフトが挙げられる。散布後のタンクやホース内の残液が次回散布時に残留基準値超過を招く恐れがあるため、散布器具の洗浄は必須である。また、ドリフトは残留基準値超過以外にも近隣住民等とのトラブルや水域など環境への影響をもたらすため、風向きや風速に注意するなど、基本的な散布操作の徹底やドリフト低減ノズルや飛散防止ネットの利用などドリフトを減らす対策をとる必要がある。近年、利用が拡大しているドローンだが、農薬散布の際は関係法令及び令和元年施行のガイドラインに従う必要がある。

登録農薬失効情報（2022.12.1～2023.2.28）農林水産消費安全技術センター（FAMIC）の登録農薬失効情報より抜粋

登録番号	農薬の種類	農薬の名称	申請者名 (略称)	失効日 月/日/年
<b>殺虫剤</b>				
15678	ブプロフェジン・B P M C 粉剤	アブロードバッサ粉剤 D L	日本農薬	12/15/22
19477	テブフェンピラド乳剤	ヤシマピラニカ E W	協友アグリ	2/8/23
20264	ジフルベンズロン水和剤	レターデン水和剤	がしや	12/22/22
21339	クロマフェノジド・シラフルオフェン粉剤	マトリックジョーカー粉剤 D L	日本化薬	1/31/23
21814	チリカブリダニ剤	石原チリガブリ	石原産業	2/20/23
22014	シフルトリン液剤	H J バイスロイド液剤 A L	ハイパックス	12/19/22
<b>殺虫殺菌剤</b>				
19733	ブプロフェジン・B P M C ・フルトラニル粉剤	アブロードバッサモンカット F 粉剤 D L	日本農薬	12/15/22
20010	フィプロニル・プロベナゾール粒剤	D r . オリゼプリンス粒剤 6	MMAG	12/27/22
21857	M E P ・イミノクタジンアルベシル酸塩粉剤	協友スミチオンベルコート粉剤 D L	協友アグリ	12/14/22
<b>殺菌剤</b>				
5299	銅水和剤	クブラビットホルテ	パティル	2/6/23
15652	イミノクタジン酢酸塩塗布剤	( D I C ) ベフラン塗布剤 3	日本曹達	12/16/22
20525	フェノキサニル粉剤	アチーブ粉剤 D L	日本農薬	2/6/23
21102	石灰硫黄合剤	大塚石灰硫黄合剤	OATアグリオ	12/22/22
<b>除草剤</b>				
14708	トリクロピル粉粒剤	石原ザイトロン微粒剤	石原産業	1/11/23
18581	イマゾスルフロンのジメタメトリン・ダイムロン・プレチラクロール粒剤	ハヤテ粒剤	住友化学	12/2/22
18582	イマゾスルフロンのジメタメトリン・ダイムロン・プレチラクロール粒剤	S D S ハヤテ粒剤	イステイア	12/27/22
18895	シメトリン・ピラゾキシフェン・プレチラクロール粒剤	石原ワンオール S 1 キロ粒剤 2 4	石原産業	12/21/22
19212	イマゾスルフロンのシハロホップブチル・ジメタメトリン・プレチラクロール粒剤	シェリフ 1 キロ粒剤	住友化学	12/2/22
19462	シハロホップブチル・ジメタメトリン・ピラゾスルフロンのエチル・プレチラクロール粒剤	ホクト 1 キロ粒剤	日産化学	12/9/22
19612	カフェンストロール・ダイムロン・ベンスルフロンのメチル粒剤	クサトリエース H ジャンボ	ケイ化学	1/31/23
20248	カフェンストロール・ダイムロン・プロモブチド・ベンスルフロンのメチル水和剤	ラクダープロフロアブル	ケイ化学	1/31/23
20632	プレチラクロール・ベンゾピシクロン水和剤	S D S クサコントフロアブル	イステイア	12/27/22
20972	カフェンストロール・ダイムロン・プロモブチド・ベンスルフロンのメチル水和剤	ラクダープロ L フロアブル	ケイ化学	1/31/23
21088	イソキサベン・フロラズラム水和剤	ターザインプロ D F	コルバ・ジャパン	2/24/23
21909	ペンディメタリン水和剤	グリーンケア G 顆粒水和剤	イステイア	2/6/23
21162	インダノファン・クロメプロップ・ダイムロン・ベンスルフロンのメチル粒剤	ダイナマン D 1 キロ粒剤 5 1	ケイ化学	1/31/23
21180	インダノファン・クロメプロップ・ダイムロン・ベンスルフロンのメチル水和剤	ダイナマン D フロアブル	ケイ化学	1/31/23
21188	カフェンストロール・ダイムロン・プロモブチド・ベンスルフロンのメチル粒剤	ラクダープロ 1 キロ粒剤 7 5	ケイ化学	1/31/23
21190	カフェンストロール・ダイムロン・プロモブチド・ベンスルフロンのメチル粒剤	ラクダープロ 1 キロ粒剤 5 1	ケイ化学	1/31/23
21240	インダノファン・クロメプロップ・ベンスルフロンのメチル粒剤	ダイナマンジャンボ	ケイ化学	1/31/23
21392	ジメタメトリン・ピラゾスルフロンのエチル・ピリフタリド・プレチラクロール粒剤	日産アピロファイン D ジャンボ	日産化学	12/9/22
21423	フェントラザミド・プロモブチド・ベンスルフロンのメチル粒剤	クサトリー D X 1 キロ粒剤 7 5	ケイ化学	1/31/23
21535	フェントラザミド・プロモブチド・ベンスルフロンのメチル水和剤	クサトリー D X フロアブル H	ケイ化学	1/31/23
21537	フェントラザミド・プロモブチド・ベンスルフロンのメチル水和剤	クサトリー D X フロアブル L	ケイ化学	1/31/23
21605	フェントラザミド・プロモブチド・ベンスルフロンのメチル粒剤	クサトリー D X 1 キロ粒剤 H 7 5	ケイ化学	1/31/23
22569	カフェンストロール・ダイムロン・ピラゾキシフェン・ベンゾピシクロン粒剤	トビキリ 1 キロ粒剤	石原産業	12/21/22
22613	テフリルトリオン・メフェナセット粒剤	ポッシブル 1 キロ粒剤	パティル	2/22/23
22614	テフリルトリオン・メフェナセット水和剤	ポッシブルフロアブル	パティル	2/22/23
22615	テフリルトリオン・メフェナセット粒剤	ポッシブルジャンボ	パティル	2/22/23
22873	カフェンストロール・ダイムロン・ピラゾキシフェン・ベンゾピシクロン水和剤	トビキリフロアブル	石原産業	12/21/22
22890	アジメスルフロンのカフェンストロール・ピラゾキシフェン・ベンゾピシクロン粒剤	ブロードカット 1 キロ粒剤	石原産業	12/21/22
22892	カフェンストロール・ダイムロン・ピラゾキシフェン・ベンゾピシクロン粒剤	トビキリ 5 0 0 グラム粒剤	石原産業	12/21/22
24442	カフェンストロール・フロルピラウキシフェンベンジル・ベンゾピシクロン粒剤	ダンクショット 2 0 0 粒剤	イステイア	12/14/22
<b>その他剤</b>				
3971	生石灰	マルヤマ印農薬用生石灰	近藤石灰	1/17/23
15108	M C P B 乳剤	マデック	がしや	12/22/22
20194	M C P B 乳剤	マデック E W	がしや	12/22/22